

令和2年度  
劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
成果報告書

団 体 名	公益財団法人目黒区芸術文化振興財団	
施 設 名	めぐろパーシモンホール	
助成対象活動名	普及啓発事業	
内定額(総額)	1,540	(千円)
	公演事業	0 (千円)
	人材養成事業	0 (千円)
	普及啓発事業	1,540 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

### (3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	めぐろパーシモンホール アウトリーチプログラム 2020	令和2年10月1日～ 令和3年3月10日※	弦楽器、打楽器、金管楽器、声楽等 のアーティスト派遣プログラムを 区内の26箇所で開催。※	目標値	2,910
		目黒区立小中学校、 こども園、幼稚園※		実績値	2,156※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

#### 自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

#### 【地域の特性とアウトリーチプログラムのミッション】

平成 28 年度の「めぐろ芸術文化振興プラン」の改定にあたり、平成 26 年に目黒区が実施した「芸術文化に関する意識調査」では、9 割以上の区民が「芸術に触れたり、活動することは大切である」と答えており、特に「子どもの頃から親しめる芸術文化の振興」が大切であるという回答が約 7 割を占めたことから、区民の多くが芸術文化の重要性を認識しており、子どもが触れられる芸術文化へのニーズが高いことが分かる。

また、目黒区は子育て世帯や高齢者が多いため、子どもや子育て世代にとっても魅力的で、かつ高齢者や心身が不自由な人も生きがいを持って生活できる環境が整えられることが求められている。

以上のようなニーズに応えるため、日頃芸術文化に触れる機会が少ない方々や地域の子どもたちに芸術文化を間近で鑑賞する機会を提供することで鑑賞者・支援者を増やすと共に、能動的な鑑賞や実演する人材を育成することで多彩な芸術文化活動が育まれる土壌を形成し、これによって地域が活性化することを目的にアウトリーチプログラムを実施している。

#### 【令和 2 年度の実施について】

各施設に実施希望調査を行ったところ、新型コロナウイルス感染症の影響から実施を希望しないと回答した学校等があったため、計 26 箇所（昨年度比▲9 箇所）での実施となった。

学校の音楽鑑賞教室や音楽発表会等行事が中止となる中、弦楽器・声楽・ワールドミュージック・管楽器・邦楽と様々なジャンルでアウトリーチプログラムを開催することで、地域の子どもたちにプロの演奏家による演奏の鑑賞機会や表現の楽しみを届ける機会を提供することが出来た。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

アウトリーチプログラムは毎年継続して実施を希望する学校や施設が多く、教員等士人の口コミで評判が広がるなどして、実施を希望する学校や施設は着実に増えており（平成 31 年度は区立小学校全校が参加）、児童・生徒がプロの演奏家による演奏を間近で鑑賞したり、表現の楽しみを知ることで、豊かな情操を身に付ける機会となっている。

また、施設担当者や出演者アンケートからも、継続を強く望む声が寄せられ、地域社会における当事業の重要性が増していることを示している。

更に、アウトリーチプログラムを鑑賞した方が出演者のワークショップに参加したり、当財団主催・共催公演に行く機会も生まれ、新しい鑑賞者の掘り起しにもつながり、地域の文化的土壌の形成・醸成に寄与している。

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

新型コロナウイルス感染症の影響から、外部の訪問者を受け入れたり、大勢の鑑賞者が一か所に集まる行事を行うことは予防対策の面から難しいとの理由で今年度は実施を希望しないと回答した学校等があったため、実施場所・鑑賞人数共に当初目標に届かなかった。

プログラム実施の際には、1会場につき複数公演を実施することで一度に集まる鑑賞人数を減らしたり、体育館で実施することで距離を確保する等、コロナ禍の中でも事業を継続する工夫を行うことで、多くの子どもたちに間近で芸術文化に触れる機会を提供することができた。

#### 【指標と達成結果】

##### ■実施会場

当初目標計 37 箇所に対し、計 26 箇所の実績となった。(小学校 19 校、中学校 4 校[うち 1 校は初実施]、こども園・幼稚園 3 施設)

##### ■鑑賞人数

当初目標は計 2,910 人であったが、計 2,156 人の実績となった。(小学校 1,583 人、中学校 348 人、こども園・幼稚園 225 人)

##### ■実施会場アンケート結果

○内容について→全校から 5 点満点中 5 点の高評価を得た。

○今後の実施希望について→「希望する」という回答が 100%であった。

##### ■指定管理者運営評価委員会評価（令和元年度）

「教育活動及び区民が芸術文化に触れる機会の創出」という評価項目が 5 点満点中 4.5 点の高評価であった。また、アウトリーチの継続を望む評価を得た。



【小学校体育館での開催の様子】

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

#### 【事業期間について】

当初の事業期間は2020年6月～2021年3月であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け2020年10月からの開催となった。途中、緊急事態宣言発出もあったが2021年3月まで継続して事業を実施した。

2020年4月に目黒区小中学校副校長会においてアウトリーチプログラム実施を周知し、各学校の希望調査を実施した。学校以外の施設については、ホールから施設担当者に連絡を取り、個別に状況を確認した。

希望調査を受け、前年度の振り返りを基に適切なジャンル・出演者の協議を各施設担当者で行い、開催日は実施施設の希望に沿うよう調整した。

#### 【事業費について】

新型コロナウイルス感染症により、当初目標計37箇所に対し計26箇所での実施となったため、要望時予算額に対する実績額は、おおよそ▲24%の変更率となった。しかし本助成を得ることで、1会場での実施回数の増加を検討することが可能になり、多くの会場へコロナ禍における対策案を提示しての働きかけを行うことが出来た。

また、新型コロナウイルス感染症対策として、除菌シート等の消耗品を購入し、出演者の手指消毒や譜面台等の消毒に活用した。

アウトリーチプログラムは目黒区を通じての予算補助の他に当該事業に賛同している地域団体が協賛しているものの、出演料等全額を賄うことは出来ないため、本助成があることで目黒区内の学校や施設で継続的に実施出来ている。



【中学校での開催の様子】



【こども園での開催の様子】

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

#### 【地域の文化拠点として】

めぐろパーシモンホールは、目黒区文化ホールとして平成14年に開館した、大・小ホールと練習室等から構成される文化施設であり、目黒区の芸術文化の発信拠点となっている。

1,200席の大ホールは音響、設備の評価も高く、地域の学校や文化団体の発表会や鑑賞授業の会場として利用される他、プロ公演の貸館利用も多い。小ホールは、劇場型と平土間での利用が出来る為、発表会やワークショップなど、多様に活用されている。

目黒区の人口およそ28.2万人(令和2年10月1日現在)に対し、目黒区文化ホールの年間利用者は29.2万人(令和元年度実績)であり、大ホール及び小ホールも毎年80%以上の非常に高い利用率である。

また、開館当初から(公財)目黒区芸術文化振興財団が一貫して運営・管理を行い、ホールと地域の芸術活動団体とのネットワークが形成され、芸術文化を通じて地域の人々をつなげる役割も担っている。

#### 【事業の特徴】

本事業はプロの実演家による質の高い演奏とともに演奏家との交流を楽しんでもらう鑑賞型、実演家の指導による体験型の大きく分けて2つの形態で実施している。

起用する実演家は、実演家の広いネットワークを持つNPO法人2団体からの紹介により選出している。また、ホールで公演を行う演奏家や、区内に拠点を置く実演団体のアーティストなど、ホール職員が培ってきた人的ネットワークの中から、実施施設の希望や対象者を踏まえ、ジャンルや演奏者を選定している。

実施内容についても、ホール職員、実施会場担当者、実演家の三者で調整しながら、対象者にマッチした内容を提供できるよう考慮している。また、学校や子ども園等では、支援が必要な子どもも介助教員の協力を得て、鑑賞や体験に参加を促すよう工夫をしている。

実施後には参加者からの感想や施設担当者のアンケートなどから意見や要望を取り入れ、より満足度の高い内容での実施を目指しながら継続して実施していることで、教員や施設担当者間の口コミなどでも実施希望数が増加している。

令和2年度の施設担当者アンケートでは、担当教員から「今年度は音楽の授業で『歌う』ということができなかったのですが、すばらしい歌声を聴かせていただくことで、歌に触れ、子どもたちはとても満足していました。」「初めて『クラシックの演奏会』を聴いたという児童も多く、新しい世界を知ったようでした。」といった声が寄せられた。



## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

目黒区では毎年、指定管理者の運営評価を評価委員が行っている。評価内容は、施設の維持管理を中心とする指定管理事業だけでなく、幅広く文化ホールの自主事業も含めて評価をしている。アウトリーチプログラムについては、「教育活動及び区民が芸術文化に触れる機会」の項目で評価しており、本事業については、この評価を指標として事業を実施している。

### 【参考】評価項目 教育活動及び区民が芸術文化に触れる機会

年度	27	28	29	30	元
配点(5点満点)	4.6	4.4	4.6	4.4	4.5

継続的に高評価を得ており、特に令和元年度の評価では、アウトリーチプログラムについて、「小学校全校、中学校5校でアウトリーチプログラムを実施するなど、子どもたちが優れた芸術文化に触れる機会が広がっている。評価するとともに、さらなる拡充に期待する。」との評価を受けた。

当事業を開始して15年以上が経過し、実施希望施設が増加していることに加え、継続して実施している学校や施設の教員や担当者のほとんどが、恒例事業として年間のカリキュラムやスケジュールの中に当事業を組み込んでいることから、地域に当事業が根付き重要度が高まっていることがうかがえる。

また、アウトリーチプログラムに出演したアーティストが当財団主催・共催公演に出演することもあり、プロのアーティストによる演奏を身近に感じられる機会を、施設だけでなくホールにおいても提供することによって、地域の文化芸術の発展に寄与することができた。

### 【実績の発信】

アウトリーチプログラムの令和2年度事業報告を財団情報紙(令和3年3月・80,000部発行)に掲載し取り組みを紹介したほか、ホールホームページにプログラムの様子を掲載し、事業実施を広く発信している。

**2020年度 アウトリーチプログラム事業報告**

実施回数と鑑賞人数

実施回数	鑑賞人数
小学校 19校 4校 3施設	小学校 1,583人 中学校 3,348人 幼稚園・こども園 2,225人
合計: 26施設	合計: 2,136人

アーティスト紹介: 南紫音 [ヴァイオリン]、山中博史 [ピアノ]、小山豊 [清濁三弦]、小湊昭尚 [TR]、大和正樹 [和太鼓]、シシロ 邦楽

先生からの感想: コロッセイの演奏本音が心地よかったです。先生は演奏の楽しさを伝えているので、子どもたちも楽しんでいます。

栞の木日記・アウトリーチプログラム

栞の木日記で日々の様子や、アウトリーチプログラムなどについて発信しています。

### 【アウトリーチプログラム】目黒区立鳥森小学校



目黒区立鳥森小学校 6年5組A  
日時: 2020年12月16日(水) 11:20~12:10  
出演: 清濁小百合(ソプラノ)、春日保人(バリトン)、美濃島由(ピアノ)

【プログラム】  
W.A.モーツァルト: オペラ『魔笛』より 若い人は鳥羽し(カバレーのソプラノ)  
W.A.モーツァルト: オペラ『魔笛』より パパの二重唱  
北原白秋/山田耕筰: 待ちぼうけ  
十時静也/軍楽大社: 常夜灯

【財団情報紙にアウトリーチプログラム事業報告を掲載】

【ホールホームページにプログラムの様子を掲載】

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

持続的に組織活動を発展させるため、以下の取り組みを行っている。

#### 【人材育成の役割】

地域の文化施設として、めぐろパーシモンホールが求められている社会的役割は、芸術・文化を媒体とした「文化縁」の形成とその充実による地域の活性化である。アウトリーチプログラムを実施する中で、ホールの担当職員が実施先の学校や施設の担当者と面談しニーズを汲み上げ、ホールのネットワークやNPO法人の紹介により適切な実演家を選出し、実演家側と内容を協議するといった経験を積むことで、ホール自体のミッションを果たすための人材の育成に寄与している。

#### 【財務面での取り組み】

持続的、発展的な事業実施と安定的な収益基盤確保のため、指定管理料、事業収入、施設利用料のほか、助成金や法人・個人賛助会による協賛金の獲得に向け積極的な周知を行いつつ、継続的な経費縮減に努めている。

#### 【地域のネットワークの強化】

アウトリーチプログラムを通じて、区内の学校や芸術文化活動団体との連携を強化している。

##### ①大学との連携

目黒区にキャンパスを置く東京音楽大学の学生が「アウトリーチプログラム 東京医療センターオータムコンサート」を始め、令和元年度「Welcome to MEGURO 東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス開校記念『室内楽&オーケストラ』コンサート」や令和3年度「めぐろで第九 2020+1」に出演している。

##### ②地元で活躍するアマチュア団体との連携

目黒区で活動するアマチュア5団体と「めぐろパーシモンホール芸術文化ネットワーク」を平成23年に発足し、そのメンバーが区内特別養護老人ホームのアウトリーチプログラムに出演している。

助成を得ることは経営基盤の強化、安定化に不可欠であり、今回の助成により質の高いプログラムが実現し、地域の芸術文化振興に寄与することができた。